

2024年10月11日

「ヤクルトマンナイター」にて環境対応に関する取り組みを実施 ～「カーボン・オフセット」と「リサイクル実証実験」の取り組み～

株式会社ヤクルト本社（社長 成田 裕）は、2024年9月18日（水）の東京ヤクルトスワローズ対広島東洋カープ戦（神宮球場）にて開催された「ヤクルトマンナイター」において、環境対応に関する取り組みを実施しました。

気候変動への対応として、「ヤクルトマンナイター」における電気使用や運営者とお客様の移動に伴い排出されるCO₂について、カーボン・オフセット^{※1}を実施し、90t-CO₂の結果となりました。

また、プラスチックの資源循環への対応として、来場者へ無料提供した「Newヤクルト」

（8,960本）の飲用後の空容器の自主回収を行いました。その際、飲用者にはリサイクルの取り組みの一環として、飲み終えた空容器とアルミのふたを分け、特設の洗浄台で水洗してもらい、容器の回収に協力していただきました。

当社は、これまでもポリスチレン素材の容器を「マテリアルリサイクル^{※2}」および「ケミカルリサイクル^{※3}」の技術実証に活用していますが、今後も使用済みポリスチレン容器の回収方法の確立や再資源化に向けた取り組みを行っていきます。

なお、この度、回収した容器は、再生樹脂化したうえでマテリアルリサイクルの技術検討を行う予定です。

ヤクルトグループは、地球環境へのマイナスの影響を減少させ、プラスの影響を与える取り組みを推進していくために、2021年3月、人と地球の共生社会の実現を目指す「ヤクルトグループ環境ビジョン」を策定しました。今後も、本ビジョンのもと実効性のある取り組みを推進していきます。

※1 コンサート、スポーツ大会および国際会議などのイベントに伴って排出されるCO₂排出量の全部または一部を他の場所での排出削減・吸収量（クレジット）で埋め合わせるという考え方です。

※2 使用済みポリスチレンを破砕・溶解し、再度ポリスチレンの原料として再利用するリサイクル方法。

※3 使用済みポリスチレンを高温下の熱分解と蒸留精製によりポリスチレンの原料であるモノマーに戻し、再びポリスチレンを製造するリサイクル方法。

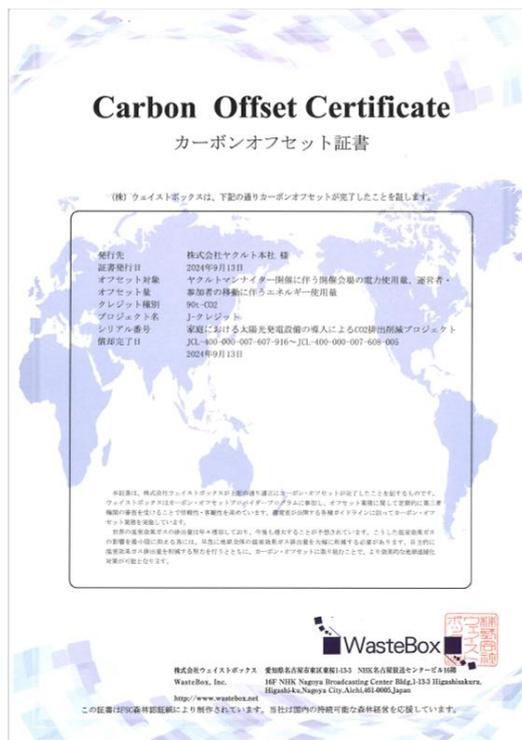
[カーボン・オフセットの取り組み]



ヤクルトマンナイターバナー



スコアボードでのカーボン・オフセットPR



カーボン・オフセット証書

[プラスチック資源循環の取り組み]



空容器回収エリア



空容器洗浄の様子



空容器を回収ボックスへ投入



リサイクルにご協力いただいた方々

以上